

編 集 後 記

私が所属する施設では、最近急激に重症の成人先天性心疾患の患者様を診療する機会が増えてきました。自分が新生児期の頃から診ている患者様が、続々と成人するのを目の当たりにしていると、成人先天性心疾患の患者数が増えるのも納得できます。

重症の心疾患の患者様が成人に至るのは大変素晴らしいことです、成人して就職をする段階になると、児童、生徒、学生の頃とは社会への関わり方がそれまでと異なり、悩むことがあります。現在私は、日本小児循環器学会が主催している、主に学校関係者、家族関係者、および小児循環器専門医以外の医療関係者を対象にした遠隔配信セミナーを行う PH Japan プロジェクトを担当しています。今年の8月に行われた第三回遠隔配信セミナーの午後の部のテーマは「患者さんの自立した社会生活とそれに向けた教育を考える」でした。そこで、日本全国の診療にあたる先生方、患者様を支える学校関係者及び家族関係者から様々な情報をいただき、成人になるにあたり、様々な角度からケアをする必要性について、大いに勉強させていただきました。

医学的な面においても、今年の日本小児循環器学会学術集会では、フォンタン手術後を中心に、成人先天性心疾患について衝撃的な長期予後のデータが発表されました。最近、他の学会や研究会においても、今まで予測しなかったような長期予後の結果が発表されています。海外からは多くの大規模な成人先天性心疾患の予後に関する論文が発表されています。しかし治療方法のみならず、治療適応や社会制度が異なると、海外のデータをそのまま日本の状況に当てはめることはできません。

そのような状況において、新たな情報を共有する方法として、日本小児循環器学会の英文誌のみならず、日本語版の果たす役割も重要です。より効果的に学会雑誌が利用できるよう、学会雑誌編集委員として、改めて尽力する決意です。

(高橋 健)